

事業計画など承認

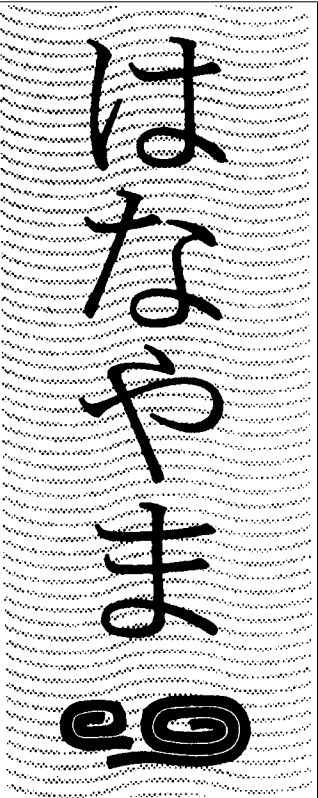
23年度会 大震災対応も協議



平成23年度通常総会—常盤木学園シュトラウスホール

平成二十三年の宮城県芸術協会総会は、未曾有の災害をもたらした東日本大震災のため当初の開催日程が延期となり、六月十一日午後二時四十分より常盤木学園シュトラウスホールで開かれた。東日本大震災における本協会の対応、公益法人移行準備委員会の検討状況などについての報告があり、二十二年度の事業報告と収支決算、二十三年度

の事業計画案と収支予算案が提案され、満場一致で承認された。開会に先立ち、会員総数二千二百六十名（年度末）、出席者百十二名、委任状千五百五十四名で、大会が成立することを司会の田村政晴理事が確認。議長に池田僊雲理事、議事録署名人に桜井忠彦評議員と建部恭子評議員を選出した。また大震災により会員に五名の犠牲者があつた旨の報告があり、出席者全員で黙祷を捧げた。小山理事長から大震災により文化行政がなごりにならぬよう各県知事に対する要望書の提出について、先に行われた東北・北海道交流の席上確認したことが報告された。公益法人移行準備委員会の検討状況については、これまで九回の委員会を重ねており、



発行
社団法人
宮城県芸術協会
(郵便番号 980-0803)
仙台市青葉区国分町3-3-7
宮城県民会館内
電話 (022) 261-7055
FAX (022) 214-5184
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
編集 小山喜三郎

平成二十四年度通常総会での公益法人移行申請決議を目指していることが報告された。大震災により本年度事業が圧縮された経緯、それに伴う予算措置、秋の芸術祭を震災復興事業と位置付けること等が協議された。なお監査報告に立った監事からは、組織としての活動の重要性と併せて会員各人の創作活動こそが大切であると、特に指摘があつた。

文化施設の 早期復旧を陳情

小山理事長は六月二十二日、県知事と県議会議長に、東日本大震災で被災した東京エレクトロンホール宮城など県立文化施設の早期復旧と、使用可能になった施設の貸し出しについて弾力的な運用を求め、要望書を提出した。

大邱の心を芸術文化振興に

義援金を県文化振興基金に寄付

東日本大震災に関連し、小山理事長は六月二十二日、県庁を訪れ、小泉保環境生活部長に、韓国芸術文化団体総連合会大邱広域市連合会の文武鶴会長から寄託された東日本大震災への義援金一〇万円を手渡した。同連合会は当協会と二十年近く交流を続けている団体で、今回の大震災で芸術分野の活動拠点となる多くの公共文化施設が被災し、中止せざるを得ない事業が出るなど、本県の芸術文化活動が著しく停滞することが懸念されるため、急遽行つた。要望書を受理した若生副知事と小野副議長は、ともに「要望書の趣旨は良くわかる。早急に対応したい」と述べた。四月二十日に大邱で開催した震災チャリティー音楽会「宮城の春のために」の入場料や絵画などの売上金を宮城の芸術文化の復興のためにと当協会に寄託していた。趣旨を尊重し、義援金は宮城県文化振興基金に寄付することにした。当協会では大邱側の厚意に対し、感謝状を贈つた。

平成二十三年度総会に先立って催された記念講演では、元仙台市博物館館長東海林恒英氏が、狂歌を通して見た文人伊達政宗について講演した。

要旨は次のとおりで、政宗の人間味溢れる一面に参加者は興味深く耳を傾けていた。
一、はじめに

伊達政宗は広く武将として知られているが茶、能、和歌など文化的な面においても造詣が深かった。

二、狂歌とは
滑稽味のある和歌。万葉集の戯笑歌、古今集の俳諧歌の系統を受け継ぐもので、題材も自由で、機知頓才を重んじ

政宗と狂歌

= 総会記念講演 =
元仙台市博物館長
東海林恒英氏



る文学である。鎌倉室町の頃より武将、公家と次第に上流社会へと流行して行った。特に江戸中期の天明ごろ江戸で大ブームとなったが、明治以降は殆ど姿を消した。

政宗自筆の二五〇首を集録
④青葉亭 (明治)
⑤伊達政宗御詩歌要釈
昭和一〇年政宗三百年祭を記念して出版

四、伊達政宗の狂歌

人名、地名、ことば遊びなどに係る狂歌を数十首残している。以下は講演で取り上げられた主な狂歌。
○烏丸光広卿より肥後のつる

し柿に狂歌を添へて送られしお返し
烏帽子とはまことなりけり
此菓子を拝領まうすからす丸柿 (人麿に掛け)

○秀宗、宇和島に赴くとき

宇和島の寒かりけるも道理かな志賀 (砂) の上衛門桑折 (氷) 左衛門

○さむき夜もろはくの酒をのむとて折ふし月のさし出たれば狂歌

雪しろし月しろたえの寒き夜はげに諸白の濁そのまるる (白づくし)

政宗は堅い一方ではなく狂歌や和歌を作る面白い奥の深い文武両道の人物であった。
(佐藤淑子記)

中一年)、奨励賞 坂本晴菜 (仙台市立将監中二年)、作者賞 成田真唯 (前述) 【特別賞】
宮城県知事賞 前川登亜 (中級)、仙台市長賞 伊藤広貴 (初級)、河北新報社賞 藤沢瑠美 (上級)

芸術祭でも復興支援

東日本大震災にあたり、当協会では五月に義援金を寄託したが、この秋開催の第48回芸術祭も震災復興支援事業と位置付けて実施することになった。これは今回の大震災で宮城県の文化施設等が特に大きな被害を被ったことに配慮し、六月二十九日の宮城県・仙台市・河北新報社など主催七団体による第48回芸術祭委員会が決定したものである。

新入会員

【彫刻部】野地節子

〒980-0065 仙台市青葉区土樋一丁目一

八〇三 〇二二一八〇六八

【茶道部】(織田流) 奥村南裕

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前四十三三十一〇三

〇〇三三四九七九二九〇

県知事賞は前川さんに

第31回ピアノコンクール

県芸術協会主催の第三十一回音楽コンクール(ピアノ部門)の本選が五月十五日(日)常盤木学園シユトラウスホールで行われた。

二月二十日の予選通過者は参加者百六人中三十九人。当初本選は三月二十一日実施の予

定だったが、東日本大震災で仙台市戦災復興記念館が使えなくなつたため、会場と期日を変更して実施にこぎつけた。受賞者は次のとおり(敬称略)。

【初級】
最優秀賞 伊藤広貴 (仙台)

市立袋原小二年)、優秀賞 阿部咲新 (東松島市立大塩小二年)、小山葉奈 (仙台市立愛子小四年)、奨励賞 梅津百伽 (名取市立増田西小三年)、岡田悠聖 (仙台市立八乙女小二年)、山崎涼音 (宮城教育大学付属小三年)、貝沼純 (名取市立増田西小四年)、作曲者賞 伊藤広貴 (前述)、高瀬彩音 (仙台市立黒松小二年) 【中級】

最優秀賞 前川登亜 (名取市立増田小三年)、優秀賞 佐竹礼子 (仙台市立桂小五年)、奨励賞 尾形優太郎 (仙台市立館小五年)、菊地みほ (仙台市立川平小六年)、後藤陽 (富谷町立成田東小五年)、作曲者賞 佐竹礼子 (前述) 【上級】
最優秀賞 藤沢瑠美 (仙台市立幸町中二年)、優秀賞 成田真唯 (宮城教育大学付属

平成 22 年度 事業 報告

平成22年度も宮城県における芸術文化の支柱となり、常にその振興発展を寄与することを目的とし、下記事業を行った。
なお、3月11日の東日本大震災により開催に影響をうけた事業が1事業(第31回音楽コンクール・ピアノ部門・本選)あった。

①宮城県芸術祭の開催

事業名	期 日	会 場	入場者数	出品点数等
開場式	9/24	せんだいメディアテーク5F	48名	
絵画展	9/24～10/6	せんだいメディアテーク5・6F	10,417名	日本画 66点・洋画242点
華道展	9/24～29	せんだいメディアテーク5F	2,955名	前期 31 後期32
彫刻展～彫刻部会員とその仲間展2010～	9/24～29	せんだいメディアテーク5F	1,969名	(会員) 19点(仲間展) 9点
写真展	10/1～6	せんだいメディアテーク5F	2,515名	125点
書道展	10/8～13	せんだいメディアテーク5・6F	5,531名	341点
工芸展	10/8～13	せんだいメディアテーク5F	2,324名	66点
文学散歩	9/29～30	「羽後・南部文学小紀行」	28名	
茶会	10/10・17・24	輪王寺	1,104名	
長唄演奏会	10/17	仙台市民会館小ホール	188名	
「宮城県文芸年鑑」発行	10/20	—	—	*950部発行
音楽会	10/26	仙台市青年文化センター	523名	
文芸祭	10/30	東京エレクトロンホール宮城	57名	
写真展蔵王展	10/14～21	蔵王町ふるさと文化会館	535名	82点
写真展大和展	10/23～27	大和町まほろばホール	546名	82点
絵画・書道展東松島展	11/11～15	東松島市コミュニティーセンター	643名	日本画14洋画40書44
閉会式	11/18	ホテルメトロポリタン仙台	275名	

②芸術文化に関する展覧会、講演会、研究会、発表会の開催

事業名	期 日	会 場	入場者数	出品点数等
第15回杜の都大茶会	5/29～30	勾当台公園	8,648名	
県民との美術交流・人物クロッキー ・ギャラリートーク ・絵画楽園	10/2	東京エレクトロンホール宮城	47名	
		せんだいメディアテーク5・6F	65名	
		せんだいメディアテーク5・6F	15名	
みやぎミュージックフェスタin角田	6/27	角田市市民センター	500名	*会員出演者4名
第3回宮城の気鋭展	1/10～19	LBギャラリー	616名	27点
宮城県芸術協会 絵画部門 「光芒の昭和－芸術祭25年－」	2/1～3/13	カメイ記念展示館	2,326名	
第31回音楽コンクールピアノ部門 ・予選 ・本選	2/20	仙台市戦災復興記念館	(参加者) 106名	
	5/15※	常盤木学園シュトラウスホール	39名	

※「第31回音楽コンクールピアノ部門本選」は当初3月21日、仙台市戦災復興記念館で予定していたが、震災により延期し、5月15日、常盤木学園シュトラウスホールで開催した。

③国内及び国外との芸術文化の交流

事業名	期 日	会 場	入場者数	出品点数等
東北・北海道交流 短詩型文芸・色紙作品展	6/1～6	札幌市資料館ミニギャラリー	515名	117点(内当協会15点)
日・韓国際交流「仙台・大邱交流書道・工芸展」	8/15～21	大邱文化芸術会館	1,500名	172点(内当会:書道33・工芸43)

④研修会の開催

事業名	期 日	会 場	入場者数	備考
絵画部スケッチ研修会	5/15～16	岩手県(八幡平・岩手山山麓)	36名	
講演会「東北新時代」講師:一力 雅彦氏	5/22	せんだいメディアテーク	122名	
第38回研修旅行	11/21～26	ラオス(ルアンプラバン・ハノイ)	23名	
書道部研修会「墨の話」講師:松井 重憲氏	10/10	東京エレクトロンホール宮城	106名	

⑤機関紙「はなやま」の発行

事業名	発行号数	発行日	発行部数	内 容
機関紙「はなやま」発行	184号	4/30	2,550部	・総会告知、新入会員紹介、各事業紹介等
	185号	6/30		・総会報告、平成21年度事業報告・収支決算、平成22年度事業計画案・収支予算案等報告等
	186号	10/30		・第46回宮城県芸術祭報告、仙台・大邱交流書道・工芸展・各事業報告等
	183号	1/20		・第46回宮城県芸術祭事業・受賞者等報告、各事業報告等

会員名簿の発行

「平成22年度社団法人宮城県芸術協会会員名簿」発行	6/30	3,000部	※隔年発行
---------------------------	------	--------	-------

平成 23 年度 事業計画

①宮城県芸術祭の開催

事業名	期 日	会 場	事業概要	
開場式	9/23	せんだいメディアテーク 5 F	テーブルカットにより開場式を行う。	
書道展	9/23～28	せんだいメディアテーク 5・6 F	会員に発表の場を提供するとともに、県民・市民に対し芸術文化の鑑賞の機会を提供することにより、宮城県における芸術文化の振興発展を図る。	
工芸展	9/23～28	せんだいメディアテーク 5 F		
絵画展	9/30～10/12	せんだいメディアテーク 5・6 F		
華道展	9/30～10/5	せんだいメディアテーク 5 F		
彫刻展～彫刻部会員とその仲間展2011～	9/30～10/5	せんだいメディアテーク 5 F		
写真展	10/7～12	せんだいメディアテーク 5 F		
文学散歩	9/27～28	青森（三沢・八戸・十和田方面）		
茶会	10/9・16・23	輪王寺		
「宮城県文芸年鑑」発行	10/15	-		
長唄演奏会	10/16	仙台市民会館小ホール		
音楽会	10/31	青年文化センターシアターホール		
文芸祭	10/29	東京エレクトロンホール宮城601会議室※		
工芸展歳王展	10/14～19	歳王町ふるさと文化会館（ございんホール）		広く県民に鑑賞の機会を提供するため、県内各市町において「工芸展」「絵画・書道展」、「写真展」を開催する。
絵画・書道展大和展	11/7～13	大和町まほろばホール		
絵画・書道展塩竈展	11/16～20	ふれあいエスパ塩竈		
写真展栗原展	11/8～13	栗原文化会館（アポロプラザ）	各部受賞者を顕彰し、芸術祭を閉会する。	
閉会式	11/24	ホテルメトロポリタン仙台		

※ 7月4日に文芸部で今年度会場手配つかず（東京エレクトロンホール宮城は年内再開の目処がたたず）中止を決定。

②芸術文化に関する展覧会、講演会、研究会、発表会の開催

事業名	期 日	会 場	事業概要
県民との美術交流・人物クロッキー ・ギャラリートーク	10/ 8	仙台福祉プラザ プラザホール	絵画愛好者の初心者から上級者までを対象に、作品解説や技術指導を行い、県民に絵画に対する理解を深める機会を提供する。
	10/ 8	せんだいメディアテーク 5・6 F	
みやぎミュージックフェスタ in 大崎	10/23	未定	会員の発表の場の提供と、地域で活動する音楽家の支援を目的とするとともに、地域の方々に音楽鑑賞の機会を提供する。
第4回宮城の気鋭展	1/10～19	LBギャラリー	本年度の宮城県芸術祭絵画展の受賞者及び受賞候補者の作品を展示し、県民に新進気鋭の作家の作品の鑑賞の場を提供する。
（カメイ記念展示館共催）第3回絵画作品展	未定	カメイ記念展示館	当協会が果たしてきた役割を示す絵画展を開催し、多くの県民に鑑賞する機会と場を提供する。（助カメイ社会教育振興財団と共催。）
第32回音楽コンクール（ピアノ部門）	予選 2/19	仙台市戦災復興記念館 カワイミュージックショップ仙台	宮城県の小・中学校児童生徒の音楽的資質向上に寄与することを目的に開催する初級・中級・上級3部門のピアノコンクール。
	本選 3/20	仙台市戦災復興記念館	

※例年開催の河北新報社共催「杜の都大茶会」は震災により本年度は中止。

③国内及び国外との芸術文化の交流

事業名	期 日	会 場	事業概要
東北・北海道交流 短詩型文芸・色紙作品展	6/7～12	コンチネンタルギャラリー（札幌市）	東北・北海道の芸術文化活動の啓発を目的に当協会が所属する東北・北海道芸術文化団体協議会が主催となり「交流短詩型文芸・色紙作品展」を開催する。

※大邱との交流事業は昨年度協議において本年度事業（仙台での書道・工芸展）を6月開催の予定にしていたが、震災により両団体で協議の上、平成24年度に順延とした。

④研修会の開催

事業名	期 日	会 場	事業概要
絵画部スケッチ研修会	5/14～15	秋田県（男鹿半島方面）	会員に研修の機会を提供し、創作・発表活動の活性化に資する。
講演会「伊達政宗と狂歌」（講師：東海林恒英）	6/ 1 1（総会）	常盤木学園シュトラウスホール	
書道部研修会	9/25	仙台市戦災復興記念館	
工芸部研修会	11月上旬	未定	
第39回研修旅行	10/31～11/5	タイ（バンコク・チェンマイ・チェンライ）方面	

⑤機関紙「はなやま」の発行

事業名	期 日	事業概要
機関紙「はなやま」発行	年4回（5・7・10・1月）	会員や関係機関へ当協会の活動を公開するため、機関紙「はなやま」を発行する。

平成22年度収支計算総括表【決算】

(平成22年 4 月 1 日～平成23年 3 月31日)

科 目	合 計	一 般 会 計	芸術祭会計
I. 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
基本財産運用収入	25,000	25,000	0
入会金収入	1,500,000	1,500,000	0
会費収入	23,420,000	23,420,000	0
事業収入	13,163,762	10,012,200	3,151,562
負担金収入	13,617,650	0	13,617,650
助成金収入	650,000	250,000	400,000
寄付金収入	140,000	0	140,000
雑収入	239,999	89,999	150,000
事業活動収入計	52,756,411	35,297,199	17,459,212
2. 事業活動支出			
事業費支出	33,477,763	15,542,866	17,934,897
管理費支出	16,776,595	16,776,095	500
事業活動支出計	50,254,358	32,318,961	17,935,397
事業活動収支差額	2,502,053	2,978,238	△ 476,185
II. 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
III. 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
IV. 他会計振替額 一般会計から芸術祭会計へ	0	△ 476,185	476,185
IV. 予備費支出		0	0
当期収支差額	2,502,053	2,502,053	0
前期繰越収支差額	17,415,924	17,415,924	0
次期繰越収支差額	19,917,977	19,917,977	0

平成23年度収支予算総括表【予算】

(平成23年 4 月 1 日～平成24年 3 月31日)

科 目	合 計	一 般 会 計	芸術祭会計
I. 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
基本財産運用収入	40,000	40,000	0
入会金収入	1,300,000	1,300,000	0
会費収入	23,230,000	23,230,000	0
事業収入	10,823,200	6,610,200	4,213,000
負担金収入	13,221,000	0	13,221,000
助成金収入	400,000	0	400,000
寄付金収入	140,000	0	140,000
雑収入	290,000	150,000	140,000
事業活動収入計	49,444,200	31,330,200	18,114,000
2. 事業活動支出			
事業費支出	30,043,282	10,264,632	19,778,650
管理費支出	18,697,000	18,697,000	0
事業活動支出計	48,740,282	28,961,632	19,778,650
事業活動収支差額	703,918	2,368,568	△1,664,650
II. 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	185,436	185,436	0
投資活動収支差額	△185,436	△ 185,436	0
III. 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
IV. 他会計振替額 一般会計から芸術祭会計へ	0	△1,664,650	1,664,650
V. 予備費支出	20,436,459	20,436,459	0
当期収支差額	△ 19,917,977	△ 19,917,977	0
前期繰越収支差額	19,917,977	19,917,977	0
次期繰越収支差額	0	0	0

「寺山修司記念館」と「つぼのいしづみ」

9月27・28日 文学散歩の参加者募集

第四十八回宮城県芸術祭の文学散歩は、三沢市の寺山修司記念館と青森県東北町の「つぼのいしづみ」などを訪ねる。そのほか、七月十日オープン「是川縄文館」(八

戸市)では、国宝の合掌土偶や重要文化財の漆工芸品の見学、また十和田湖畔散策など芸協ならではの内容の充実した旅となる。

〈募集要項〉

日時・九月二十七日(火)・二十八日(水)の一泊二日
募集人員・四十名
参加費・二万四千元
申込み・九月九日(金)まで
芸術協会事務局(0221-26117055)へ。会員

以外の方でも参加出来るので、広くお誘い合わせの上、多数ご参加いただきたい。
〈日程とコース〉

三沢市の寺山修司記念館

副主任・運営委員を委嘱

茶道部は、二月八日の運営委員会、平成二十三年度からの鎌田宗節氏(裏千家)の副主任就任を決めた。

また、各部門では次のとおり運営委員を委嘱した。

〔絵画部〕(洋画) 安彦文平
〔彫刻部〕 大槻俊之「書道部」 寺島尚翠「華道部」(池坊) 伊藤翠華「音楽部」(洋楽) 小原世、須田昌宏、山田みづほ(長唄) 杵屋和加美栄「文芸部」 金澤孝一「茶道部」(表千家) 守宗玲 敬称略

9月27日(火)

集合7:45仙台駅西口バスプール、8:00出発―前沢S A―岩手山S A(啄木歌碑)―八戸・昼食―三浦哲郎文学

碑―是川縄文館―寺山修司記念館―17:40古牧温泉「青森屋」到着・宿泊
9月28日(水)
出発8:30古牧温泉―日本中央碑歴史公園―十和田湖・昼食―乙女の像・高村光太郎歌碑―樹海ライン―花輪S A―北上市鬼の館―18:20仙台駅西口到着・解散

被災三県に要望書提出

東北・北海道芸文協総会

Ⅱ色紙作品展も開催Ⅱ

芸術文化団体が相互の交流を図り、芸術の文化振興について話し合う東北・北海道芸術文化団体協議会の平成二十三年度総会が六月七日に札幌市で開催され、当協会から小山理事長と白鳥事務局長が出席した。

総会では役員の選出、平成二十二年事業報告及び収支決算、平成二十三年事業計画案が審議・議決された後、各道県の芸術文化について情報交換を行った。
テーマは①各道県における

後継者育成事業の現況②東日本大震災における各道県芸術文化に対する影響とその対応③公益法人への移行の進捗状況の三件で、各道県の実情について活発な意見交換が行われた。特に今回は三月十一日発生した東日本大震災に関する情報交換が中心となり、協議の結果、当協議会の会長・副会長名で岩手・宮城・福島知事と議会議長に、県立文化施設の早期復旧と芸術文化関係予算の充実に関する要望書を提出することが決められ



札幌のギャラリーに展示された短詩型文芸・美術色紙作品展。

た。総会に合わせ、札幌市内のギャラリーで「二〇一一年東北・北海道交流短詩型文芸・美術色紙作品展」が開催された。会場には各道県から出品された一二〇組の作品が展示され好評を博した。中でも東日本大震災に関わる作品が注目を集め、津波の犠牲となった子どもを画題とした小山理事長はNHK札幌放送局や北海道新聞社から取材を受けた。同展は巡回展として、六月二十四日〜七月十九日に山形市芸文美術館でも開催された。

平成二十三年度の海外研修は、十月三十一日(月)から十一月五日(土)までの六日間、タイのチェンライ、チェンマイ、バンコクの三古都巡りと、国境を越えたミャン



芸協会員交流の旅 タイの三古都とミャンマー の自由市場を訪ねる

10月31日～11月5日 研修旅行参加者募集

マーの少数民族の市場を訪ねる旅に決まった。東南アジア諸国はDNA、風土、文化とも日本と共通点が多く、芸術研修として興味深い。タイの首都バンコクは近年

経済発展が目覚ましく、近代都市に散在する仏寺を彩やかなアオザイの若い女性が歩む姿が魅力的だ。

旅は古い文明へとタイムスリップし、アユタヤ、チェンマイ、チェンライの仏教遺跡を観て、終点となるラオス・タイ・ミャンマー国境で奥地の民族文化に触れる。

今回の旅は両国の建築、衣装、工芸、彫刻、舞踏等に接し、芸術の原点と展望を学ぶことになる。

《旅程》変更となる場合あり
◇10月31日(月)
仙台空港集合。全日空で成田経由バンコクへ。バンコク泊。

◇11月1日(火)
暁の寺院、王宮など市内観光とショッピング。世界遺産アユタヤ遺跡など見学。バンコク泊。

◇11月2日(水)
国内線でチェンマイへ。プラシン寺院、タイシルク民芸工房など見学。チェンマイ泊

◇11月3日(木)
エレファント・トレッキング後、専用車で古都チェンライへ。寺院見学と民家訪問。

チェンライ泊

◇11月4日(金)
国境を越えミャンマーの自由市場見学。午後、国内線でバンコクへ。夜全日空で帰国の途に。機内泊。

◇11月5日(土)
朝成田着。全日空で仙台空港11:35着。解散。

《募集要項》
参加費 二十三万五千円(空港税、燃油サーチャージ、航空保険料込)。

募集人員 三十名(最少催行人員十五名)。定員に達し次第締め切りますので、お早めにお申し込みください。

参加申込み 九月二十日(水)までに電話(022-261-7055)又はFAX(022-214-5184)で芸術協会事務局へ。

◇ ◇ ◇
この事業は芸術協会の全会員を対象としている。一つの風物に対し、詠む人、描く人、撮る人、書をしたためる人。皆で話し、飲み、唱う。現地でのコラボが楽しめる有意義な旅であり、特に初参加の会員の応募を期待している。

(早坂貞彦記)

とよつなら 今入さん



どんな人でもいつかは永遠に別れなければならぬ日がくることは承知しているが、本年二月八日に敬愛する先輩詩人の今入惇さんを失ったのは、痛恨の極みであった。亡くなる二日前、詩人の玉田尊英さんと入院中の今入さんをお見舞いした。声を出せる状態ではなかったが、意識はしっかりしていて、話の内容を理解しVサインや○印で応答してくれた。それが四〇時間後に容体が急変して亡くなったと聞いたときは、信じられない思いだった。

今入さんと初めて会ったのは一九七〇年。東京から仙台へ移住した私は藤一也さんが編集する詩誌「方」に誘われて参加。同人間で詩人論を書く企画に、今入さんと私はお互いの詩業を論じた。今入さんは石原慎太郎の短篇「ファンキージャンプ」を

援用し、麻薬に溺れたジャズピアニストの迫真の即興演奏と、私の自動記述風でアバンギャルドな作品を比較して独自の批評を展開した。その思いがけない切り口に私は驚愕した。それ以来、年代を超えて親交を結んでいただいた。

生前八冊の詩集を刊行。批評精神にあふれたヒューマンな作風を貫いた。宮城県芸術選奨、宮城県教育文化功労者表彰のほか、矯正施設月刊文芸誌選者として更生者に対する功績が認められ、法務大臣表彰を受けている。

元河北新報記者で多彩な文化活動を実践した。他の芸術ジャンルに精通し当協会の文芸部主任や常任理事を歴任。機関紙「はなやま」の編集長として敏腕を振るった。また宮城県詩人会会長として礎を築いた。頑固な一面もあったが、面倒見のいい温かい人柄でだから慕われた。心からご冥福を祈りたい。

文芸部 原田 勇男

受賞報告 忘れずに

「はなやま」では、毎号事務局日誌に会員作品の入賞や入選など受賞についての情報を掲載しております。記事は会員本人からの報告に基づいて事務局で作成しておりますので、掲載漏れにつきましては、自己責任となります。報告は随時受け付けております

「はなやま」では、毎号事務局日誌に会員作品の入賞や入選など受賞についての情報を掲載しております。記事は会員本人からの報告に基づいて事務局で作成しておりますので、掲載漏れにつきましては、自己責任となります。報告は随時受け付けております

事務局日誌

会務報告

- 5・23 監事会
- 平成22年度事業内容及び一般会計、宮城県芸術祭会計監査
- 5・30 理事会
- 平成22年度事業報告及び決算について
- 東日本大震災に伴う平成23年度収支予算案の見直しについて
- 会員の除名について
- 新入会員（正会員）の承認について
- 6・11 平成23年度通常総会
- 平成22年度事業報告及び収支決算について
- 平成23年度事業計画案及び収支予算案について
- 6・29 宮城県芸術祭委員会
- 第47回宮城県芸術祭について

ので、受賞等の栄に浴した会員は、忘れず早目に事務局までご報告願います。正確を期すため、報告に当たっては、①展覧会等の正式名称②賞の名称③受賞者名（本名か雅号か）など必要事項を記載のうえ、封書又はFAXでお寄せください。

- ①事業報告及び決算報告について
- 第48回宮城県芸術祭について
- ①役員案について
- ②事業計画案及び予算案について
- ③東日本大震災復興支援事業としての取り組みについて
- ④授賞割当て(案)について
- ⑤挨拶ローテーションについて

後援

- ☆わいど写真展
- 6月18日～6月26日
- 美里町近代文学館町民ギャラリー
- ☆第15回グラン・ラパン協会展
- 7月15日～7月20日
- せんだいメディアアテーク
- ☆第22回宮城示現会美里展
- 7月24日～7月31日
- 美里町近代文学館町民ギャラリー

- ☆第34回仙台の四季を描く絵画展
- 7月29日～8月3日
- せんだいメディアアテーク
- ☆第39回宮城野書道展
- 7月29日～8月3日
- せんだいメディアアテーク
- ☆第34回白亜会東北支部展
- 8月5日～8月10日
- せんだいメディアアテーク
- ☆2011第1回日洋会東北支部展
- 8月10日～8月14日
- 宮城県美術館県民ギャラリー
- ☆第19回宮城独立美術展
- 8月26日～8月31日
- せんだいメディアアテーク
- ☆新洋会50周年記念展
- 9月2日～9月7日
- せんだいメディアアテーク
- ☆日本歌曲と朗読の夕べ「ふるさとに想ふ」
- 9月27日
- 仙台市戦災復興記念館記念ホール
- ☆新藤典子・菊地奈美子ジョイントコンサート
- 10月19日
- 仙台青葉荘教会
- ☆第20回河北工芸展
- 10月21日～10月26日
- せんだいメディアアテーク

会員の入賞・入選など

- ◇第13回西湖芸術博覧会
- 〈洋画〉▽三潭印月賞 菅原慶子
- ◇第46回日春展

受贈書

- 〈日本画〉▽奨励賞 佐藤朱希
- ▽入選 奥山和子、吉田輝
- ◇第14回「絵のまち尾道四季展」
- 〈日本画〉▽金賞 熊谷融
- ◇第23回平泉展
- 〈日本画〉▽委員推挙 福田眞津子
- ◇第2回青木繁記念大賞西日本美術展
- 〈洋画〉▽優秀賞 佐藤光郎
- 句集「存在乃家Ⅲ」(岩田諒)

謹弔

華道部 (草月流)	斎藤玉庭殿	平成22年9月25日
絵画部 (洋画)	貝 廣殿	3月11日
文芸部 (詩)	北村淳子殿	3月11日
文芸部 (俳句)	大森知子殿	3月11日
書道部	岩佐雄陵殿	3月11日
文芸部 (短歌)	赤倉あい殿	3月12日
文芸部 (短歌)	小野寺恵子殿	3月19日
書道部	加藤明遊殿	4月27日
絵画部 (洋画)	若生正子殿	5月13日
工芸部 (木竹芸)	目黒安紀子殿	6月2日
書道部	尾形鼎山殿	6月30日
書道部	新藤翠吟殿	7月4日

けやきの譜

思わず耳を疑ってしまいました。「(大震災の被災者でも)知恵を出さないヤツは助けられないぞ」「客を迎えるときは、自分が先に(部屋に)入ってる。いいか、分かったな」▼在任九日で辞任した復興担当大臣の、信じられない暴言。徹底的な「上から目線」の口調には「部落解放の父」と慕われた祖父・治一郎氏の片鱗も感じられなかったが「オレは九州人だから」という発言に、合点がいった▼前大臣の心の底にあるのは、東北蔑視の思想なのである。戊辰戦争で朝敵として敗れた東北は「一山百文」の地とさげすまれた。それ以前も阿弓流(あきりゅう)の降伏から藤原氏滅亡まで四百年近く、敗戦の歴史を重ねてきた東北▼今回の大震災に際しても、哀れな東北、という発想が無きにしてもあらずかもしれない。だとしたら、とんでもない思い違いであり、正してもらわなければいけない。私たち一人ひとりの言動が、ますます重要になることは間違いないところである。(恂)